

## 文献リストの書き方（その1）

### 文献リストの鉄則条件

- ・ 必要な情報が盛り込まれていること。
- ・ 統一された形式で提示されていること。

書籍と雑誌の文献リストをつくる場合、必要な情報は、1) 書籍、2) 書籍の中の論文、3) 雑誌（逐次刊行物）の中の論文の3種類で異なる。

#### 1 書籍の場合

- ・ 著者名（絶対必要 書籍によっては編者名）
- ・ 書名（絶対必要）
- ・ 編者または翻訳者名（もしあれば）
- ・ 全体の巻数、版、シリーズ名など（もしあれば）
- ・ 出版地名（和書の場合は省略可）
- ・ 出版社名（絶対必要）
- ・ 発行年（絶対必要）
- ・ 巻数（もしあれば）
- ・ 総ページ数（省略可能）

#### 2 書籍の中の論文の場合

- ・ 著者名（絶対必要）
- ・ 論文名（絶対必要）
- ・ 書名（絶対必要）
- ・ 編者名（絶対必要）
- ・ 全体の巻数、版、シリーズ名など（もしあれば）
- ・ 出版地名（和書の場合は省略可）
- ・ 出版社名（絶対必要）
- ・ 発行年（絶対必要）
- ・ 巻数（もしあれば）
- ・ ページ（絶対必要）

#### 3 雑誌の中の論文の場合

- ・ 著者名（絶対必要）
- ・ 論文名（絶対必要）
- ・ 掲載誌名（絶対必要）
- ・ 発行主体名（省略可能）
- ・ 巻、号（絶対必要 雑誌によっては巻のみ、号のみ）
- ・ 発行年（絶対必要）
- ・ 発行月日（場合によって必要）
- ・ ページ（絶対必要）

## 文献リストの書き方（その2）

ネット上で入手した情報を文献リストにのせる場合

- ・ 著者名（もしあれば）
- ・ タイトル（必須）
- ・ URL（必須 略さないで正確に表記、URL 末に句読点を打たない）
- ・ 出版主体（メディア系のサイトの場合は必須）
- ・ 発表年月日（もしあれば）
- ・ 閲覧年月日（必須）

ネット上で入手できる情報の特性（書籍や雑誌と比較して）に注意すること

- ・ ネット情報は、予告無く、改編されたり、削除されたりすることがある。
- ・ ネット情報は、ページ上の特定の個所をピンポイントで指定することが困難である。（書籍や雑誌の場合、必要なら何ページの何行めといった指定が可能。）
- ・ ネット情報には、著者（書かれた内容に責任をとる主体）の名前が明示されていないことが多い。
- ・ ネット情報には、（少なくとも現在のところ）書籍や雑誌論文、あるいは他のネット情報に依拠した2次的な情報が多い。
- ・ ネット情報は、編集者などの第三者の校閲を経ないで公表されるものが多い。

以上の点から、ネット上の情報を使用する場合には、次のような配慮をすることが望ましい。

- ・ ネット情報が依拠した1次情報が判明する場合は、1次情報を優先する。
- ・ ネット情報があるサイトの視点および作成の過程を確認する。一個人のサイトか、メディアのサイトか、複数投稿型のサイトか、wiki型の複数編集サイトか、など。
- ・ 複数のネット情報源がある場合は、可能な限り信頼性の高い情報源を優先する。
- ・ 閲覧年月日を表示することによって、その時点でのネット情報であることを明らかにする。

Wikipedia について

- ・ Wikipedia の創始者ジミー・ウェールズは、ミドルベリー大学の事件に触れて、学生は Wikipedia を最終的な情報源として使用すべきではなく、研究の出発点として使用すべきだと述べている。

インタビュー：<<http://d.hatena.ne.jp/inflorescencia/20070319/1174236322>>

ミドルベリー大学の事件：<<http://slashdot.jp/articles/07/02/22/2210225.shtml>>

情報リテラシーに役立つサイト

- ・ KITIE (Keio Interactive Tutorial on Information Education)  
<<http://project.lib.keio.ac.jp/kitie/>>

### 文献リストの書き方（その3）

文献リストと論文の末尾につける参考文献目録は共通性は多いが同じものではない。文献リストはあるテーマに沿って文献を集めたものであるのに対して、論文の参考文献目録は論文の中で参照された文献のリストである。前者はそれ自体で完結しているが、後者は論文の補助である。このことから書き方にも、少しばかり違いが生じてくる。ここではまず文献リストの書き方を説明し、そのあとで文献リストの書き方を基礎にして参考文献目録の書き方について説明する。

文献リストの書き方には絶対唯一の取り決めがあるわけではない。しかし、どのような書き方であっても、文献の種類によってそれぞれ形式が異なること、その形式がリスト全体を通じて統一されていること、文献が一定の基準によって配列されていることは共通している。ここでは、一般的であることと明快であることを基準に、一つの書き方を提示する。

文献リストの書き方のポイントは、一つの文献の要素をどのように配列するか、複数の文献をどのように配列するか、である。

最初のポイントについては、要素の中の主となる要素と従となる要素を区別する、をおさえておけばよい。まず、主となる要素は、著者名と書名、著者名と論文名と論文が掲載された雑誌または書籍の名称である。従となる要素はこれ以外である。したがって、まず主となる要素を先に出し、次に従となる要素を出す。論文名、書名、雑誌名の区分であるが、通常は論文名は「」でくくり、書名や雑誌名は『』でくくるのが一般的な慣行である。

#### 1. 書籍の場合

- ・ 山田太郎編『東アジアの中の日本の歴史』まるこ出版，2005年.

#### 2. 書籍の中の論文の場合

- ・ 鈴木一郎「16世紀の日本と東アジア」山田太郎編『東アジアの中の日本の歴史』まるこ出版，pp. 23-35. 2005年.

#### 3. 雑誌論文の場合

- ・ 佐藤花子「インドネシアのトイレ：北スマトラ州の事例」『住生活研究』10(3): 45-52. 2004年.

#### 4. ネット情報の場合（個人サイトの場合）

- ・ 吉田道子「インドネシアの最新映画」<<http://abc.xyz.com/movie/>> 2007年5月5日閲覧.